

コンピューター実習Ⅱ

授業の目的・概要

本授業では、実務現場で多用される Excel の参照関数（VLOOKUP 等）やピボットテーブルを用いたデータ分析、および PowerPoint のスライドマスター機能を駆使した高度な資料作成術を教授する。

科	コンピューター実習Ⅱ	教員	大西望
コース	VN2	教員の実務経験	講師 10 年、IT サポート 13 年
対象年次	2 年	年間単位数	35

目標

- **Microsoft Excel：データ分析と効率化**
VLOOKUP/HLOOKUP や IF 関数とピボットテーブルでの作業効率化とデータ分析を伝授。
- **Microsoft PowerPoint：構造的デザインと表現**
スライドマスターとマルチメディア挿入での統一感のある「動的なプレゼン」技法を用いて伝授

授業計画

前期

- 第 0 1 回 :オリエンテーリング (1) 授業概要、評価基準、Google 共有ドライブの使い方
- 第 0 2 回 :Excel 年次振り返り (1) 表作成、オート SUM 関数による計算、条件付き書式
- 第 0 3 回 :Excel 年次振り返り (2) グラフの作成 (円、棒、複合グラフ、ヒストグラム)
- 第 0 4 回 :Excel テーブル機能、抽出、フィルター
- 第 0 5 回 :Excel ピボットテーブル
- 第 0 6 回 :Excel ピボットグラフ
- 第 0 7 回 :Excel ピボットテーブル、ピボットグラフの振りかえり
- 第 0 8 回 :Excel 応用関数 (1) IF 関数
- 第 0 9 回 :Excel 応用関数 (2) AND 関数、OR 関数、NOT 関数
- 第 1 0 回 :Excel 応用関数 (3) VLOOKUP 関数
- 第 1 1 回 :応用関数 (4) IF 関数と VLOOKUP 関数のネスト
- 第 1 2 回 :応用関数 (4) HLOOKUP 関数
- 第 1 3 回 :応用関数振り返り : IF 関数、VLOOKUP 関数、HLOOKUP 関数
- 第 1 4 回 :応用関数 (5) 文字列関数
- 第 1 5 回 :前期期末試験対策講座
- 第 1 6 回 :前期期末試験
- 第 1 7 回 :自宅課題 : VLOOKUP 関数についてレポートにまとめる
- 第 1 8 回 :前期期末試験の返却

後期

第 19 回 :後期授業概要、評価基準、スライドショー

第 20 回 :PowerPoint オリジナルスライドを作ろう！(スライドマスター、フォント、テーマ)

第 21 回 :PowerPoint ブレースホルダー内の書式設定(フォントの変更、色、行間、箇条書き)

第 22 回 :PowerPoint スライドに表を作成しよう！

第 23 回 :PowerPoint スライドにグラフを作成しよう！

第 24 回 :PowerPoint 卒業研究発表に役立つ画像データと SmartArt

第 25 回 :PowerPoint グラフィック機能のまとめ

第 26 回 :PowerPoint YouTube 動画とストック動画の挿入方法

第 27 回 :PowerPoint マルチメディア機能のまとめ

第 28 回 :発表作品制作①フォント、行間、箇条書きについて

第 29 回 :発表作品制作②プレゼンテーション作成、シナリオ作成

第 30 回 :発表作品制作③リハーサル

第 31 回 :プレゼンテーション発表

第 32 回 :プレゼンテーション発表

第 33 回 :プレゼンテーション発表

第 34 回 :プレゼンテーション発表

第 35 回 :プレゼンテーション発表

授業の方法

コンピューター演習

教材

自作プリントを随時配布する。

評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2026 年度」内に指定のファイルがあること
- 試験点：前期：期末試験での成績/後期：発表演習の成績

授業外での学習方法

予習 1h、復習 1h

実務経験と授業科目の関係

求職者支援や教育機関(大学・高校)において、MOS 資格対策から実務 PC 活用まで多岐にわたる指導・補助経験を有する。

グルーミング概論実習Ⅱ

(授業概要)

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、技術はもちろん犬の保定の仕方や扱い方等、犬に負担をかけないようなグルーミングのスキルを身に付ける。学生同士や犬に対しても気を配りながら実習を行うことで、周りを見ながら行動できる人物を目指す。

科	動物看護師学科	教員	坂本 亜由美・山崎 雅代
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	トリマー20年
対象年次	2年	年間単位時間	4単位

目標

前期

犬に負担がかからないように1人で1頭仕上げる事が出来るようになる。

中型犬・大型犬や動き回る犬の保定が出来るようになる。

後期

ベーシックマスターライセンス取得を目指す。(チワワ90分・ダックスフンド、パピヨン105分以内)

授業計画

1回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ	小型犬130分
2回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ	小型犬120分
3回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ	小型犬110分
4回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボンつけ	小型犬100分
5回	グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボンつけ	小型犬130分
6回	グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボンつけ	小型犬120分
7回	グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボン付け	小型犬110分
8回	グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボン付け	小型犬100分
9回	グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボン付け	チワワ90分
10回	グルーミング実習(1人で1頭)体調チェック〜リボン付け	ダックス115分
11回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬死毛取り
12回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬死毛取り復習
13回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬死毛取り、ドライイング
14回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬ドライイング復習
15回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬200分
16回	前期試験、グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬190分
17回	グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中型犬180分
18回	試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習(2人で1頭)体調チェック〜リボン付け	中

型犬 170 分

19 回	グルーミング実習 (2 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	中型犬 160 分
20 回	グルーミング実習 (2 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	中型犬 150 分
21 回	グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	大型犬 250 分
22 回	グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	大型犬 240 分
23 回	グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	大型犬 230 分
24 回	グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	大型犬 220 分
25 回	グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	大型犬 210 分
26 回	グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け	大型犬 200 分
27 回	グルーミング実習・ライセンス試験 (2 週に分けて実施) ①チワワ	90 分
28 回	グルーミング実習・ライセンス試験 (2 週に分けて実施) ②チワワ	90 分
29 回	グルーミング実習 (1 人で 1 頭) 体調チェック～リボン付け、お尻カット	
30 回	グルーミング実習 (1 人で 1 頭) 体調チェック～お尻カットの復習	
31 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～お尻カット、お腹下カット	
32 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～お腹下カットの復習	
33 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～お腹下カット、前肢飾り毛カット	
32 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～前肢飾り毛カットの復習	
33 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～前肢飾り毛カット、胸カット	
34 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～胸カットの復習	
35 回	グルーミング実習 (1～2 人で 1 頭) 体調チェック～下周りカットの復習	

授業の方法

ブリーダーやモデル犬の様々な犬種を使用し実技実習を行う

教材

グルーミング用品・講義プリント(下回りカットの方法)

評価方法

定期試験(実技)30%、授業態度(意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%)70%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

グルーミングの手順や掃除の手順、消毒の希釈方法をレポート用紙に書き出し整理する。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップ、トリミングサロン、動物病院にて 20 年間トリマーとして勤める。

技術的な指導はもちろん、接客や看護のスキルも学生に教授することができる。

基礎健康管理学 II

授業の目的・概要

内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。

科	動物看護師学科	教員	市川 華香
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	愛玩動物看護師 7 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

動物看護師コース（1 年次）に学んだバイタルチェック・一般身体検査を基礎とし、一次診療施設でも使用される X 線・超音波検査においての正常画像・異常画像を識別できる。臨床現場での即戦力を目指し、採血・投薬・画像診断等の診療補助において、獣医師の指示に基づいた正確な準備・実施を行うとともに、動物の異常を察知した際は優先順位を整理して、獣医師への的確な報告（ホウレンソウ）ができる能力を養う。

授業計画

【前期】

- 第 1 回 1 年次の復習・診療補助に必要な技術（愛玩動物看護師の役割、対象動物の心理、）
- 第 2 回 診療補助に必要な技術（飼い主の心理、必要器具の準備と管理方法）
- 第 3 回 検査・処置の介助に必要な技術（注射器の取り扱いおよび管理方法、採血、穿刺）
- 第 4 回 検査・処置の介助に必要な技術（カテーテルの挿入、留置、および管理方法、マイクロチップ）
- 第 5 回 投薬に関わる技術（投薬時の確認すべき項目、各剤形の取り扱い）
- 第 6 回 投薬に関わる技術（薬剤の保存について、投薬方法、介助）
- 第 7 回 輸液・輸血に関わる技術（輸液処置時における動物看護師の役割、輸液の適応とリスク）
- 第 8 回 輸液・輸血に関わる技術（輸液計画、各種輸液剤の特性、輸液に関わる手技）
- 第 9 回 輸液・輸血に関わる技術（静脈留置針設置の準備、手順、輸液中のモニタリング）
- 第 10 回 輸液・輸血に関わる技術（輸血の適応、リスク、血液型）
- 第 11 回 輸液・輸血に関わる技術（輸血計画、輸血の手順、輸血後の血液検査）
- 第 12 回 心電図と血圧測定に関わる技術（心電図計の構造、血圧計の構造）
- 第 13 回 心電図と血圧測定に関わる技術（心電図検査、血圧検査の手技、評価）
- 第 14 回 X 線検査に関わる技術（X 線検査時の動物看護師の役割、手技）
- 第 15 回 X 線検査に関わる技術（造影検査）
- 第 16 回 前期試験
- 第 17 回 国試問題配布（課題）

第 18 回 試験返却・試験の振り返り

【後期】

第 19 回 超音波検査に関わる技術（超音波診断装置の原理と構造、動物看護師の役割）

第 20 回 超音波検査に関わる技術（超音波検査でわかること）

第 21 回 内視鏡検査に関わる技術

第 22 回 CT・MRI 検査に関わる技術

第 23 回 眼科検査に関わる技術（視覚検査、眼科神経学的検査、眼底検査、その他眼科検査）

第 24 回 眼科検査に関わる技術（眼科検査、動物看護師の役割）

第 25 回 皮膚・耳の検査に関わる技術（皮膚科の検査、耳介の検査）

第 26 回 皮膚・耳の検査に関わる技術（皮膚科検査における動物看護師の役割）

第 27 回 神経学的検査に関わる技術（神経学的検査の際、環境、必要な道具）

第 28 回 神経学的検査に関わる技術（検査方法について）

第 29 回 症例別検査と看護（1）循環器・呼吸器疾患

第 30 回 症例別検査と看護（2）泌尿器・内分泌疾患

第 31 回 後期試験期間

第 32 回 国試問題配布（課題）

第 33 回 試験返却・試験の振り返り

第 34 回 症例別検査と看護（3）救急・神経・眼科疾患

第 35 回 総復習

授業の方法

本授業は、プロジェクターを用いた講義を基本とする。教科書の内容に加え、講師の臨床経験を活用し理解を深める。

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻（株式会社 EDUWARD Press、発行 2025 年 2 月）

評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。

内訳：成績点 80%前期/後期試験、平常点 20%（授業態度 10%、小テスト 10%）

評価方法の詳細については、初回の授業で学生に周知し、公平性を期す。

授業外での学習方法

事前学習： プリント記載のキーワードを事前に調べ、ノートにまとめる。

事後学習： 講義の疑問点を抽出し、調査した結果をノートに整理する。

実務経験と授業科目の関係

動物病院において動物看護師として 7 年間の臨床実務に従事。各種臨床検査（血液検査、画像診断、眼科・神経学的検査等）の補助に数多く携わった経験を活かす。

検査学

授業の目的・概要

病院勤務においてはルーチンである。臨床検査に関する知識と技術について学ぶ。検査はいわば診断治療の「切り口」であり、ここでまず正しい判断が高されなければ後の診療にも狂いが生じる。従って、知識面においても技術面においても十分な裁量が必要とされるため、その基本をまず着実に習得することが重要である。

科目名	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師歴 35 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

検査を進めるにあたって必要なことは、1.検査対象に関する知識、2.検査に関する理解、3.検査の技術、4.分析能力の 4 点である。いずれも 1 つが欠ければ検査の成果は期待できない。従って、全ての項目についてこの 4 点全てに十分な理解を示せるように訓練することが重要。

1.そもそも対象とする臓器や疾患に対する基本的な知識を所持していなければ、検査の意味すら掴めない。検査項目ごとに、まず対象に関する基本知識を習得することができる。

2.どのような検査なのか、あるいはどうしてその検査で欲しい情報が得られるのか、検査自体に関する知識と理解がなければ、結果を見ても真偽の確証を得ることは難しい。検査の原理を知ることができる。

3.病気などの知識や検査の原理を知っていても、肝腎の検査方法や技術を所持してなければ全く意味がない。如何にして検査を行うのか、その方法に関する知識を習得することができる。

4.検査の結果が出ても、最も重要なことはその結果から現在の病状を読み解く知識があるかどうかである。結果はあくまでも結果であり、そこからさらにもう一段分析を加えて最終的解答を導くことができる。

授業計画

前期

- 1回 バイタルサインと全身検査（1）：バイタルサインの理解
- 2回 バイタルサインと全身検査（2）：全身検査の手法
- 3回 総論：臨床検査の基礎
- 4回 血液検査（1）：採血と血漿・血清の分離
- 5回 血液検査（2）：全血球検査（CBC）と貧血（1）
- 6回 血液検査（3）：全血球検査（CBC）と貧血（2）
- 7回 血液検査（4）：血液塗抹標本（作製、染色、観察）
- 8回 血液検査（5）：Ht と 凝 固 能
- 9回 血液検査（6）：血液生化学検査総論
- 10回 血液検査（7）：血液生化学検査各論（1）（血漿蛋白・肝機能）
- 11回 血液検査（8）：血液生化学検査各論（2）（肝臓・脾臓・腎臓）
- 12回 血液検査（9）：血液生化学検査各論（3）（血中脂肪その他）
- 14回 血液検査（10）：血液生化学検査各論（4）（その他）
- 15回 血液検査（11）：血液ガス分析・免疫学的検査
- 16回 前期の振り返り
- 17回 前期試験

後期

- 18回 尿検査（1）：検体採取法・検体の処置
- 19回 尿検査（2）：検査手順・尿沈渣の分析
- 20回 尿検査（3）：尿沈渣の分析
- 21回 糞便検査（1）：手技と検体の取り扱い
- 22回 糞便検査（2）：観察と分析
- 23回 糞便検査（3）：その他の検査法
- 24回 細胞診検査と病理組織検査（1）：細胞診検査の方法
- 25回 細胞診検査と病理組織検査（2）：病理組織検査の方法
- 26回 遺伝子検査（1）：各種の遺伝子検査
- 27回 遺伝子検査（2）：検体の取扱いと対象疾患
- 28回 その他の検査（1）：心不全と心電図（1）
- 29回 その他の検査（2）：心不全と心電図（2）
- 30回 その他の検査（3）：腔スミア
- 31回 その他の検査（4）：眼科系・耳鼻科系

32 回 その他の検査（5）：皮膚科系

33 回 後期の振り返り

34 回 後期試験

35 回 総まとめ

授業の方法

教科書を基とした自作の p.p. のテキストを利用した講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

教材

主体は自作テキストであるが、テキスト作製に用いた参考書籍として、

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7「動物臨床病理学」
- ・ 獣医学系諸教材として「伴侶動物の臨床病理学」（石田卓夫、緑書房）、「犬猫の血液アトラス」（鷺巣月美、チクサン出版）、「犬猫の臨床検査と手技」（月瀬東、チクサン出版）

評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15 分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の 30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の 10%で、残りの 60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は $100 \times \text{出席率}$ をもって点数化し、さらにそれを全評価点の 10%とする。
- ・ 全評価点 = 出席点 $\times 0.1$ + 小テスト平均点 $\times 0.3$ + 定期試験点数 $\times 0.6$ とし、60 点以上を合格とする。

授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

実務経験と授業科目の関係

検査は広く臨床現場に用いられる謂わば「診療上の常套手段」であり、この分野の知識なくして臨床活動は不可能と断言できる。自身の実務経験からも、主要な専門知識のひとつであることに間違いはない。

公衆衛生学Ⅱ

授業の目的・概要

主に「環境衛生」分野の理解が中心となるが、他に院内衛生や人の精神衛生面における動物の役割も学習する。動物・生物領域に限らず、現在自然科学系分野において環境保全の問題は無視することができない重要項目であり、特に医療系の場合は専門である公衆衛生学の知識をもって環境問題に對峙することが世間より求められている。動物医療も「野生動物の生息環境」や「公害」の面から環境を考えていく職種であり、その意味で社会的責任も大きいということを意識せねばならない。

また、病院も我々にとっては身近な「環境」であり、領域の広さに係らず衛生的維持に努めねばならない。

科	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師歴 35 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・地球全体を取り巻く環境破壊から我々の日常生活における身近な環境問題まで、あらゆる視点から「環境」を見据えるために必要な基本的知識を身につける。特に重要なことは、今現在の状況を把握するには今に至るまでの過去も同時に知ることが大事であり、またそこから将来の行く末を予知せねば意味を持たない。従って、常に「過去」「現在」「未来」の三方向からの視点より各項目を理解していくことを念頭に知識を吸収していくことができる。
- ・動物医療を職とする我々にとっては病院もまた身近な環境である。来院する動物や飼い主への影響も意識して、常に「院内衛生」にも配慮する必要がある。日頃の仕事の一環として如何に衛生処置を施すか具体面から考えることができる。
- ・環境の状況は、動物や人の精神面にまで影響を及ぼす。肉体だけではなく精神面での衛生も踏まえて、広角的に「環境」が理解できる。

授業計画

前期

- 1 回 環境衛生とは/生態系と生物多様性：「環境衛生」の役割、生態系・生物多様性の意義
- 2 回 環境衛生の概念/地球規模的環境問題（1）：環境の恒常性、地球温暖化
- 3 回 地球規模的環境問題（2）：オゾン層破壊、酸性雨
- 4 回 地球規模的環境問題（3）：野生動物の減少
- 5 回 生物多様性と自然環境の保全：「絶滅」の回避、自然環境の再生と保全
- 6 回 化学物質と公害：メタノール、ヒ素、カドミウム その他
- 7 回 砂漠化：砂漠化の現状とその対策
- 8 回 大気衛生/海洋汚染：現状と対策
- 9 回 水の衛生（1）：上水道
- 10 回 水の衛生（2）：下水道、水系感染症
- 11 回 生活環境問題（1）：シックハウス症候群
- 12 回 生活環境問題（2）：化学物質過敏症
- 13 回 社会環境から見た国民衛生の動向：人口動態統計
- 14 回 騒音、悪臭問題：「騒音」と「悪臭」の評価
- 15 回 廃棄物問題（1）：廃棄物問題の実情
- 17 回 前期の振り返り
- 18 回 前期試験

後期

- 19 回 廃棄物問題（2）：感染性廃棄物、医療廃棄物
- 20 回 廃棄物問題（3）：放射性物質、特定廃棄物
- 21 回 衛生動物：蚊、ハエ、ゴキブリ、トコジラミ、ネズミ
- 22 回 動物検疫（1）：検疫のシステム
- 23 回 動物検疫（2）：イヌの輸出と輸入
- 24 回 仕事環境の衛生（1）：病院における衛生処理 1
- 25 回 仕事環境の衛生（2）：病院における衛生処理 2
- 26 回 仕事環境の衛生（3）：スタッフと動物の消毒
- 27 回 仕事環境の衛生（4）：洗浄・消毒・滅菌
- 28 回 仕事環境の衛生（5）：消毒薬（1）
- 29 回 仕事環境の衛生（6）：消毒薬（2）
- 30 回 動物の衛生動向：動物の健康の推移
- 31 回 人の精神衛生面における動物の存在（1）：人の精神疾患と動物（1）

- 32 回 人の精神衛生面における動物の存在（２）：人の精神疾患と動物（２）
 33 回 人の精神衛生面における動物の存在（３）：ペットロス
 34 回 後期の振り返り
 35 回 後期試験

授業の方法

教科書を基とした自作の p.p. のテキストを利用した講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

教材

主体は自作テキストであるが、参考書籍として、

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 「公衆衛生学」
- ・ 獣医学系諸教材として「獣医公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ」（文永堂出版）を使用

評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15 分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の 30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の 10%で、残りの 60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は 100×出席率をもって点数化し、さらにそれを全評価点の 10%とする。
- ・ 全評価点＝出席点×0.1＋小テスト平均点×0.3＋定期試験点数×0.6 とし、60 点以上を合格とする。

授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

実務経験と授業科目の関係

獣医師会の代表として、行政と共働で「動物のいる環境における人の精神衛生の向上」を十年以上調べる。「環境衛生」は一般に医療ではなく獣医療の領域とされ、行政はもとより臨床系の獣医師も正規に教育を受ける公衆衛生学中の重要な分野である。

人と動物の関係学

授業の目的・概要

人と動物の関係について、その歴史と現在の状況について学ぶ。動物と暮らすことの恩恵、適切に関わるための知識（人と動物の福祉、動物介在介入、虐待等）についての理解を深め、動物看護師として社会の人々を支援できる力を育てる。

科	動物看護師学科	教員	中野 あや
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	獣医師 (一般臨床と行動専門科各10年)
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

人と動物の関わりの歴史と現在の状況について学び、ペットが人に与える影響について理解できる。
日本と欧米の動物の在り方について、その違いを説明できる。

後期

動物介在介入について理解し、動物福祉の観点から活動を評価できる。
人と動物の福祉の観点について学び、適正飼育や虐待についての知識を深め、自分で考える力を持つ。

授業計画

- 第1回 人と動物の関係学：導入ガイダンス
- 第2回 なぜペットを飼うのか（4章－1）
- 第3回 ペットの効果、現状（4章－2）
- 第4回 人と動物の関係の歴史（1章－1）
- 第5回 動物と宗教（1章－1）
- 第6回 動物と日本の文化（1章－2）

- 第7回 日本と西洋の動物との関わりの比較 (1章-3)
- 第8回 前期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第9回 現代の動物の使用状況 (2章-1)
- 第10回 人の健康への動物の効果 (2章-2)
- 第11回 動物介在療法の歴史 (3章-1)
- 第12回 動物介在介入の定義 (3章-1)
- 第13回 学校飼育動物の現状 (3章-3)
- 第14回 動物介在介入のまとめ
- 第15回 前期のまとめ、復習とディスカッション
- 第16回 前期試験
- 第17回 採点期間のため読書課題
- 第18回 前期試験返却・試験の振り返り
- 第19回 動物の役割 (使役場面、高齢者、子供) (4章-5)
- 第20回 学校飼育動物の目的と実際、子供と動物 (3章-3)
- 第21回 動物介在活動を実施するために (3章-2)
- 第22回 動物虐待の定義と背景 (5章-1)
- 第23回 動物虐待の対処と法規制 (5章-2,3)
- 第24回 動物虐待・動物利用を考える
- 第25回 後期前半まとめ、復習とディスカッション
- 第26回 ペットの現状について (4章-1,2)
- 第27回 ペットと幸せに暮らすために (4章-3)
- 第28回 ペットへの愛着と依存 (4章-4)
- 第29回 ペットロス (4章-5)
- 第30回 多頭飼育の問題 (5章-4)
- 第31回 高齢化による飼育困難 (5章-6)
- 第32回 ペテリナリーソーシャルワーク (5章-7)

第 33 回 後期試験

第 34 回 採点期間のため読書課題

第 35 回 後期試験返却・試験の振り返り

授業の方法

授業用プリントへの書き込み、板書、テキスト教材を用いた講義

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書(4 巻)、授業用プリント、資料動画

評価の方法

試験 80%（自宅課題の評価を含む）、授業への参画 20% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前事後学習：各授業回の教科書指定範囲を読むこと、参考書籍の読書、授業時間外の質問対応

実務経験と授業科目の関係

所属獣医師会における市民向け公益事業への参画、臨床における飼主と動物への寄り添い等の実践的経験。

動物医療コミュニケーション I

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師に求められる動物医療コミュニケーションの知識と技能を修得し、獣医療現場において飼い主、動物、獣医師および動物看護スタッフとの円滑な関係を構築できる能力を養うことを目的とする。授業では、獣医療面接の基本である傾聴、受容、共感、質問技法をはじめ、問診、身体検査補助、受付・会計業務、電話対応、トリアージなどの実践的なコミュニケーション技術を学ぶ。また、クライアントエデュケーションとして予防医療や在宅看護に関する説明技法、インフォームドコンセント、グリーフケア、チーム医療における情報共有の重要性について理解を深める。さらに、動物病院運営に必要な接遇やマネジメントの基礎を学び、飼い主の信頼に応えながら獣医療の質向上に貢献できる愛玩動物看護師としての専門的態度と実践力を身につける。

科	動物看護師学科	教員	石原 昌代
コース	動物看護師コース	教員の実務経験	愛玩動物看護師
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

動物の健康管理に必要な知識をもとに、クライアントエデュケーション、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につけ、実際の動物病院の対応業務に近づけていく。

1 回	授業について	挨拶、姿勢、身だしなみ、所作
2 回	獣医療面接	コミュニケーション能力の重要性
3 回	獣医療面接	獣医療面接とは
4 回	獣医療面接	言語的・非言語的メッセージ
5 回	獣医療面接	傾聴
6 回	獣医療面接	受容 共感 支持
7 回	獣医療面接	開かれた質問 閉ざされた質問
8 回	獣医療面接	問診

9 回	獣医療面接	身体検査
10 回	獣医療面接	受付 会計
11 回	獣医療面接	電話対応
12 回	獣医療面接	待合トリアージ
13 回	獣医療面接	電話トリアージ
14 回	獣医療面接	クレーム対応
15 回	前期復習	
16 回	前期試験	
17 回	前期試験／採点	
18 回	前期試験返却	
19 回	クライアントエデュケーションとは	
20 回	クライアントエデュケーション	指導ポイント
21 回	クライアントエデュケーション	予防医療説明
22 回	クライアントエデュケーション	入院、容体説明
23 回	クライアントエデュケーション	疾患別在宅看護
24 回	一斉インターン	
25 回	一斉インターン	
26 回	院内コミュニケーション	インフォームドコンセントとは
27 回	院内コミュニケーション	獣医療インフォームドコンセント
28 回	院内コミュニケーション	安楽死 グリーフケア
29 回	院内コミュニケーション	チーム医療コミュニケーション
30 回	動物病院マネジメント	物品購入、管理 ペット保険
31 回	後期試験	
32 回	後期試験／採点	
33 回	後期試験返却	
34 回	総復習	
35 回	グループワーク	

授業の方法

教科書に基づく座学、実際の現場で必要な知識、実症例についてスライドと資料を用いる

教材

EDUWARD Press 8

評価の方法

期末試験 70%、平常点 30%（出席率、授業態度、レポートなど）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

日常生活から学べる知識をチェックリストで提供

実務経験と授業科目の関係

愛玩動物看護師：動物病院では様々な家族に寄り添った対応を行う為、マニュアル通りだけではない多様な知識と実践。また、愛護活動の観点から適正飼養指導の必要性和導き方について、実経験を用いて提供する

動物解剖生理学Ⅱ

授業の目的・概要

動物解剖生理学Ⅰで未習の範囲を学習。その後さらにⅠから発展させて、国家試験対策として既知の項目をより深く学習すると同時に、付随する組織学分野の知識習得も心がける。動物解剖生理学Ⅰで充分に知識を得る機会がなかった項目も、ここで改めて確認していきたい。

科	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師歴 35 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・1 学年時の動物解剖生理学Ⅰで習得できなかった項目を学び、動物形態機能学の全章を習得し終える。
- ・国家試験の出題傾向に併せ、特に重要な部分や取りこぼし易い部分に再度ポイントを置いて「まとめ」と「補足」を徹底する。そして、国家試験に対応する形態機能学の知識を万全に整えることができる。
- ・形態学は目で学ぶ部分もあるため、国家試験対策としては特に組織学系の準備も形態学の一部として怠るべきではない。実際に組織標本を「目で見る」ことにより、より詳細に形態学の知識を深めることができる。

授業計画

前期

- 1 回 感覚器（1）：視覚と視神経（「形態機能学Ⅰ」より続く）
- 2 回 感覚器（2）：聴覚と平衡覚（1）
- 3 回 感覚器（3）：聴覚と平衡覚（1）
- 3 回 泌尿器系（1）：腎臓の構造（1）
- 4 回 泌尿器系（2）：腎臓の機能（2）

- 5 回 泌尿器系 (3) : その他泌尿器の構造
- 5 回 泌尿器系 (3) : その他泌尿器の機能
- 6 回 生殖器系 (1) : オス生殖器の構造と機能 (1)
- 7 回 生殖器系 (2) : オスの生殖器の構造と機能 (2)、メスの生殖器の構造と機能 (1)
- 8 回 生殖器系 (3) : メスの生殖器の構造と機能 (2)
- 9 回 生殖器系 (4) : 受精と交配
- 10 回 生殖器系 (5) : 妊娠
- 11 回 筋肉 (1) : 筋肉の構造と機能 (1)
- 12 回 筋肉 (2) : 筋肉の構造と機能 (2)
- 13 回 筋肉 (3) : 骨格筋
- 14 回 上皮系 (1) : 上皮の構造と機能
- 15 回 上皮系 (2) : 皮膚の付属機関
- 16 回 前期の振り返り
- 17 回 前期試験
- 後期
- 18 回 上皮系 (3) : 体温調節機構
- 19 回 (まとめ・補足) 消化器系 (1) : 感覚器としての舌
- 20 回 (まとめ・補足) 消化器系 (2) : 肝臓と膵臓
- 21 回 (まとめ・補足) 循環器系 (1) : 心臓の構造と機能 (1)
- 22 回 (まとめ・補足) 循環器系 (2) : 心臓の構造と機能 (2)、心電図について
- 23 回 (まとめ・補足) 呼吸器系 : 感覚器としての鼻
- 24 回 (まとめ・補足) 内分泌系 : 各種ホルモンの作用
- 25 回 (まとめ・補足) 神経系 : シナプスの構造と伝達回路
- 26 回 (まとめ・補足) 白血球と免疫機能 : 自然免疫の機能と免疫細胞
- 27 回 (まとめ・補足) 白血球と免疫機能 : 獲得免疫の機能と免疫細胞
- 28 回 組織学 (1) : 舌、下顎腺、食道、胃、腸、
- 29 回 組織学 (2) : 肝臓、膵臓、腎臓、尿管、膀胱
- 30 回 組織学 (3) : 脾臓、甲状腺、副腎、心筋、リンパ節、
- 31 回 組織学 (4) : 脳、脊髄、精巣、卵巣、子宮
- 32 回 組織学 (5) : その他の組織
- 33 回 後期の振り返り
- 34 回 後期試験
- 35 回 総まとめ

--

授業の方法

教科書を基とした自作の p.p のテキストを利用した講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

教材

主体は自作テキストであるが、参考書籍として、

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 「動物形態機能学」
- ・ 家畜比較解剖図譜（養賢堂）をはじめ、獣医学系諸教材

評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15 分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の 30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の 10%で、残りの 60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は 100×出席率をもって点数化し、さらにそれを全評価点の 10%とする。
- ・ 全評価点＝出席点×0.1＋小テスト平均点×0.3＋定期試験点数×0.6 とし、60 点以上を合格とする。

授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

実務経験と授業科目の関係

およそ動物医療に係る者であれば、誰しもが持つべき基本科目である。当方も獣医師として数十年臨床に携わってきた身である以上、この教科は謂わば仕事の土台である。

動物外科看護学実習

授業の目的・概要

外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術実施に必要な知識を修得する。

科	動物看護師学科	教員	三輪 喬太 寺鼻 友美
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	獣医師 8 年 愛玩動物看護師 7 年
対象年次	2 年	年間単位数	4 単位

目標

フェーズ1（第1回～第7回）：外科診療で使用する基本的な器具の名前と扱いを覚える
 フェーズ2（第9回～第15回）：術前準備に重要性と手技を修得する。
 フェーズ3（第18回～第25回）：麻酔処置、術中補助、術後管理における動物看護を理解する。
 フェーズ4（第24～第35回）：縫合材料、創傷管理、救急救命法、機能回復を広く理解する。

授業計画

【前期】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 手指の消毒法・手の拭き方
- 3回 ガウン・グローブの装着法
- 4回 外科器具の種類
- 5回 医療器具の種類 / 輸液ポンプ
- 6回 滅菌準備
- 7回 手術器具の滅菌
- 8回 フェーズ1の実技試験
- 9回 術前手続き・リスク分類
- 10回 術前検査①（一般身体検査・レントゲン）手術室の準備
- 11回 術前検査②（採血・保定・血液検査）動物の術前準備
- 12回 筆記による習熟度の確認
- 13回 動物の術前準備
- 14回 術野の消毒・ドレープ
- 15回 手術室の準備

- 16 回 前期試験
- 17 回 前期のまとめ・調べ学習
- 18 回 前期試験総括 / 麻酔薬について
- 【後期】
- 19 回 麻酔器の回路構成、リークテスト / 気管挿管
- 20 回 バイタルサインとモニターの読み方
- 21 回 筆記による習熟度の確認
- 22 回 麻酔記録の作成 / 導入時・覚醒時のリスク管理
- 23 回 フェーズ3の実技試験
- 24 回 実際の臨床現場における周術期
- 25 回 実際の臨床現場における手術準備と術後対応
- 26 回 創傷管理と包帯法 / 看護実習室内の備品確認
- 27 回 縫合糸と縫合針 / 看護実習室内の備品確認
- 28 回 縫合法 / 疼痛管理
- 29 回 筆記による習熟度の確認
- 30 回 リハビリテーションと代表的な理学療法
- 31 回 後期試験
- 32 回 後期のまとめ・調べ学習
- 33 回 後期試験総括
- 34 回 手術予備日 / 救急救命法
- 35 回 手術予備日 / 褥瘡管理

授業の方法

講義後に実技を行い、最後に授業全体の総括まとめを提出する。

教材

愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8 巻 (EDUWARD Press、発行 2023 年 9 月)

評価の方法

成績評価は 100 点満点で行う。

内訳: 期末試験 80% (前期/後期試験)、授業への参画 20%

以上の評価方法については、初回の授業で学生に周知し、公平性を期す。

授業外での学習方法

事前学習: シラバスを確認し次回の授業内容の予習を行う。

事後学習: 実技を含めた習熟内容を復習し他の科目とのつながりを知る。

実務経験と授業科目の関係

獣医療臨床現場における実務経験を活かす。

動物感染症学Ⅰ

授業の目的・概要

動物だけに限らず、疾病の多くは感染症であるため、動物医療従事者として感染症全般に関する知識は欠かすことはできない。そのためには、まずその原因となる細菌、ウィルス、真菌、プリオン、寄生虫それら自体についての基礎知識が最低限必要であることは言うまでもなく、さらに診断と検査、対処法までの臨床面の知識も大いに要求される。また、感染症には単に動物への影響には留まらず、人への危険性（人獣共通感染症、食中毒）も配慮せねばならないため、免疫学や公衆衛生学への理解も大事である。これら全てを総合的に理解する。

科	動物看護師学科	教員	水澤 栄雄
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師歴 35 年
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

- ・感染症の直接の原因となる細菌、ウィルス、真菌、プリオン、寄生虫に関する基礎知識を最初に学ぶことが重要である。それぞれに関して分類（プリオンは例外）、生活環、形状、性状などについて重要な点を整理・比較しながら理解することができる。
- ・病原や疾患に対する対処法を知る。そのためには検査法や薬剤に関する知識も並行して理解することができる。
- ・人獣共通感染症や食中毒など、動物⇄人の経路を摂る感染症に関しては、感染の道筋とも言うべき疫学面からの理解も意識することができる。
- ・感染症への最大の配慮は予防にある。特に病院内では院内感染への注意が大事であるため、具体的な予防措置についても知ることができる。

授業計画

- 1 回 感染症学序章・ウィルス学総論（1）：ウィルスの構造、代謝（1）
- 2 回 ウィルス学総論（2）：ウィルスの構造、代謝（2）
- 3 回 ウィルス学総論（3）：ウィルスの分類
- 4 回 ウィルス学総論（3）：ウィルスの増殖、感染
- 5 回 細菌学総論（1）：細菌の構造、細菌の遺伝子

- 6回 細菌学総論（2）：細菌の分類
- 7回 細菌学総論（3）：細菌の感染と発症
- 8回 細菌学総論（4）：細菌の増殖と代謝
- 9回 真菌学総論（1）：真菌の構造、代謝
- 10回 真菌学総論（2）：真菌の分類、感染
- 11回 プリオン総論（1）：プリオンの構造
- 12回 プリオン総論（2）：プリオンと感染
- 13回 微生物検査法（1）：バイオセーフティ
- 14回 微生物検査法（2）：滅菌と消毒（1）
- 15回 微生物検査法（3）：滅菌と消毒（2）
- 後期
- 16回 微生物検査法（4）：細菌検査法
- 17回 微生物検査法（5）：ウィルス検査法
- 18回 微生物検査法（5）：真菌検査法と薬剤感受性試験
- 19回 免疫応答：自然免疫と獲得免疫
- 20回 動物感染症の実際（1）：病原体の伝播と生体防御機構
- 21回 動物感染症の実際（2）：ワクチン、抗ウィルス剤、抗菌薬
- 22回 寄生虫学（1）：総論・原虫類（1）
- 23回 寄生虫学（2）：原虫類（2）
- 24回 寄生虫学（3）：線虫類（1）
- 25回 寄生虫学（4）：線虫類（2）
- 26回 寄生虫学（5）：線虫類（3）
- 27回 寄生虫学（6）：扁形動物（1）
- 28回 寄生虫学（7）：扁形動物（2）
- 29回 寄生虫学（8）：扁形動物（3）・外部寄生虫（1）
- 30回 寄生虫学（9）：外部寄生虫（2）

授業の方法

教科書を基とした自作 p.p のテキストを利用しでの講義を行う。適時小テストを行う。（テストの実施時は授業の進行により調整する。）

教材

主体は自作テキストであるが、参考書籍として、

- ・ EDUWARD Press 版 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3 「動物感染症学」
- ・ 獣医学系教材として「獣医微生物学第 4 版」（文永堂出版）を使用。

評価の方法

- ・ 年間複数回の小テスト（10～15 分程）を授業中に実施し、その平均点をもって総合評価の 30%とする。
- ・ 総合評価は、その他出席点が全評価の 10%で、残りの 60%は定期試験の成績とする。
- ・ 出席の評価は $100 \times \text{出席率}$ をもって点数化し、さらにそれを全評価点の 10%とする。
- ・ 全評価点 = $\text{出席点} \times 0.1 + \text{小テスト平均点} \times 0.3 + \text{定期試験点数} \times 0.6$ とし、60 点以上を合格とする。

授業外での学習方法

授業外の学習は基本前回講義の復習に当てる。その成果については複数回の小テストでの判断とする。

実務経験と授業科目の関係

動物の内科疾患にも少なからず感染症が含まれるため、感染症に関する専門知識は当然大いに必要となる。また、人にも影響を及ぼす人獣共通感染症に対しても獣医師は配慮せねばならず、狂犬病を筆頭として感染症への予防対策も重要な職務のひとつである。

動物看護学実習

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師として必要な基本的看護技術および診療補助技術を実践的に修得することを目的とする。授業では、動物福祉の理念に基づいた看護師としての心構えや衛生・安全管理をはじめ、保定法、身体検査、バイタルサイン評価、入院動物の管理などの基礎的な看護技術を学ぶ。さらに、尿・便・皮膚・耳道などの各種検査補助、採血、注射、輸液管理、血液検査、画像検査補助など、診療現場で必要となる実践的な知識と技術を身につける。また、インターンシップを通じて臨床現場における動物看護業務への理解を深めるとともに、獣医師の指示のもとで適切な診療補助を行うための判断力と対応力を養う。愛玩動物看護師として安全で質の高い動物看護を提供できる実践力の修得を目指す。

科	動物看護師学科	教員	梶 英美子
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	動物看護師歴 17 年
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

前期：一般身体検査の内容を理解し、安全に動物を保定・管理できる。

後期：検査・処置に必要な手技を理解し、内容に応じた準備が安全に行える。

授業計画

- 1 回 実習に臨む前の心構え身だしなみ・看護師意識・動物福祉について
- 2 回 入院動物の日常管理について
- 3 回 衛生・安全管理
- 4 回 保定法
- 5 回 身体検査・バイタルサイン評価
- 6 回 排泄行動のアセスメントと排泄の観察
- 7 回 診療時に必要な器具とその準備・管理方法
- 8 回 内部寄生虫・外部寄生虫について
- 9 回 検査・処置の介助に必要な技術(顕微鏡検査)
- 10 回 検査・処置の介助に必要な技術(採尿方法・採便方法)
- 11 回 検査・処置の介助に必要な技術(尿検査)
- 12 回 検査・処置の介助に必要な技術(便検査)
- 13 回 検査・処置の介助に必要な技術(皮膚検査)
- 14 回 検査・処置の介助に必要な技術(耳道の検査)
- 15 回 前期復習
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験返却・解説

- 18回 動物に応じた環境調整
- 19回 投薬方法について
- 20回 検査・処置の介助に必要な技術(マイクロチップ・皮下注射)
- 21回 検査・処置の介助に必要な技術(注射器の管理・採血・穿刺)
- 22回 検査・処置の介助に必要な技術(留置・輸液管理)
- 23回 検査・処置の介助に必要な技術(血液検査)
- 24回 インターン実習
- 25回 インターン実習
- 26回 検査・処置の介助に必要な技術(塗抹検査・百分比)
- 27回 輸血・クロスマッチについて
- 28回 心電図検査
- 29回 X線検査について
- 30回 後期試験
- 31回 後期試験の
- 32回 手術前検査について
- 33回 画像検査について(超音波・CT・MRI)
- 34回 エリザベスカラー・腹帯の作成
- 35回 包帯法について

授業の方法

座学と実習（検体の採取状況に応じて実習内容は前後する場合があります）

教材

EDUWARD Press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 第7巻/実習テキスト

評価の方法

試験 80%、授業態度 10%、課題提出 10% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次回のポイントを書きだし授業内容の疑問点を整理し確認すると共に指定課題に取り組む。

実務経験と授業科目の関係

実際の臨床現場で診られる症例を基に授業へ反映し、自身の経験を提供する。

動物看護師ゼミ演習Ⅰ

授業の目的・概要

動物看護師国家試験受験に向けての「徹底的な基盤固め（1 年次既習範囲の再構築）」、専門性を深める「卒業研究の着手」、そして臨床現場への即戦力をめざす「インターン実習準備」の 3 点を柱とした実践的演習。また、学校行事の準備を通じて、現場で不可欠なチームワークとコミュニケーション能力を養うことを目的とする。2 年次は学習内容が高度化するが、その土台となる 1 年次の基礎知識（未定着な状態では、実習や国試対策で壁にぶつかる。そのため、本ゼミでは「わからない」を放置しない補填教育を並行して行う。

科	動物看護師学科	教員	寺鼻 友美
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	動物病院勤務 7 年・一般企業営業 5 年・ペット用品卸の会社広報(営業)1 年半
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・1 年次の未定着な知識を徹底的にリカバリーしつつ、個別面談を通じて自身の課題と将来の方向性を明確にできる。また、スポーツ大会や卒業研究の準備通り、臨床現場で必須となるチームワークとコミュニケーション能力を習得することができる。
- ・一斉インターン実習の準備を通じてプロとしての自覚を高めるとともに、KAP エキスポや卒業研究発表、研修旅行といった集団行事の運営を通じ、臨床現場で不可欠な高度なコミュニケーション能力と課題解決能力を修得することができる。また、個別面談により国家試験合格に向けた学習フォローを行い、動物看護師としてのキャリア形成を確固たるものにできる。

授業計画

- 1 回 自己紹介・2 年のスケジュールについて・愛玩動物看護師国家試験にむけて
- 2 回 卒研話し合い(チーム決め/テーマ決め)・個人面談
- 3 回 卒研話し合い・個人面談
- 4 回 卒研話し合い・個人面談
- 5 回 スポーツ大会チーム決め
- 6 回 スポーツ大会練習

- 7 回 スポーツ大会練習
- 8 回 授業の苦手分野の復習 座学/卒研
- 9 回 授業の苦手分野の復習 実技/卒研
- 10 回 実習のしおり読み合わせ/履歴書復習
- 11 回 履歴書復習/卒研
- 12 回 夏休み特別講義について/卒研
- 13 回 卒研進捗確認・授業の苦手分野の復習
- 14 回 夏休みの過ごし方・勉強方法/一斉インターンについて(アンケート配信)
- 15 回 自主学習課題回収・一斉インターンについて・履歴書準備/個人面談
- 16 回 前期試験対策/履歴書・挨拶状準備
- 17 回 履歴書準備・挨拶状準備/卒研/個人面談
- 18 回 履歴書準備・挨拶状準備/卒研/個人面談
- 19 回 授業の苦手分野の復習 座学
- 20 回 授業の苦手分野の復習 実技
- 21 回 卒研進捗確認/
- 22 回 一斉インターン挨拶電話/卒研
- 23 回 一斉インターン心構え/復習
- 24 回 一斉インターン
- 25 回 一斉インターン
- 26 回 研修旅行について
- 27 回 インターンお礼状レポート/卒研
- 28 回 授業の苦手分野の復習
- 29 回 国試対策
- 30 回 国試対策
- 31 回 授業の苦手分野の復習/卒研進捗確認
- 32 回 国試対策
- 33 回 KAP エキスパート準備
- 34 回 KAP エキスパート準備
- 35 回 授業の苦手分野の復習/卒研進捗確認

授業の方法

座学・実技・グループワーク

愛玩動物看護師国家試験対策問題集(株式会社エドワードプレス・緑書房)・2026 年版実習のしおり

評価の方法

授業態度 80%、平常点 20% (、等、授業中の小テストの点数など)

授業外での学習方法

事前学習として、履歴書の書き方や挨拶状の下書き等を行う。

事後学習として、お礼状や実習日誌、レポートの作成を自宅で行う。

実務経験と授業科目の関係

動物看護師としての勤務、国試受験の経験から動物病院で働く際の知識と心構え、勉強のフォロー勉強方法を伝えることができる。

動物看護総合実習

授業の目的・概要

本授業は、動物看護に関する基礎的知識と態度を踏まえ、動物病院や関連施設におけるインターンシップを通して実践的な動物看護能力を養うことを目的とする。事前学習では実習先の業務内容や接遇、職業倫理を理解し、円滑に現場実習へ移行できる準備を行う。インターンシップ期間中は、獣医療現場における動物看護業務を体験し、チーム医療の一員としての役割や責任を学ぶ。事後学習では実習内容の振り返りと分析を行い、課題の明確化と改善を図ることで、動物看護師としての実践力と職業意識の定着を目指す。

科	動物看護師学科	教員	三輪
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	3 年次	年間単位数	3 単位

目標

- ・動物看護の現場における基本的な業務内容と役割を理解し、実践できる
- ・獣医療チームの一員として必要な接遇やコミュニケーション能力を身に付ける
- ・インターンシップでの経験を振り返り、課題を整理し改善点を考察できる
- ・職業倫理を踏まえ、動物看護師としての責任感と職業意識を身に付ける

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業目的・評価方法・実習全体の流れ）
- 第2週 動物看護実習の心構えと職業倫理
- 第3週 実習先の理解と業務内容の事前学習
- 第4週 実習マナー・接遇・報連相の基本
- 第5週 インターンシップ開始（現場実習）
- 第6週 インターンシップ

第 7 週	インターンシップ
第 8 週	インターンシップ
第 9 週	インターンシップ
第 10 週	インターンシップ
第 11 週	インターンシップ
第 12 週	インターンシップ
第 13 週	インターンシップ
第 14 週	インターンシップ
第 15 週	インターンシップ
第 16 週	インターンシップ
第 17 週	インターンシップ
第 18 週	インターンシップ
第 19 週	インターンシップ
第 20 週	インターンシップ
第 21 週	インターンシップ
第 22 週	インターンシップ
第 23 週	インターンシップ
第 24 週	インターンシップ
第 25 週	インターンシップ
第 26 週	インターンシップ
第 27 週	インターンシップ
第 28 週	インターンシップ
第 29 週	インターンシップ
第 30 週	インターンシップ
第 31 週	実習報告書作成指導
第 32 週	実習内容の整理とケーススタディ
第 33 週	実習発表準備

第 34 週 実習成果発表会

第 35 週 総括・振り返り・評価

授業の方法

事前の説明や事後の振り返り以外は、実習先での実践となる。

教材

特になし。

評価の方法

評価表 30%、レポート提出 30%、実習日誌 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、実習先の業務内容や動物看護業務の基本、接遇マナーおよび職業倫理について教科書や資料を用いて整理し、実習に必要な基礎知識を身に付ける。事後学習として、インターンシップでの経験を振り返り、実習日誌や報告書にまとめることで自己の課題を明確化し、今後の学習や実践力向上につなげる。

実務経験と授業科目の関係

本授業は動物病院等でのインターンシップを含む実践的科目であり、獣医師として臨床現場を熟知する担当教員がクラス担任・責任者として指導にあたることで、教育内容の信頼性と安全性が担保される。獣医師の立場から、医療現場における動物看護業務の実践やチーム医療における役割分担、さらには緊急時対応や倫理的判断について具体的な指導が可能である。また、実習先との連携や評価においても専門的視点を活かし、学生が現場で求められる実践力と職業意識を適切に身に付けられるよう総合的に支援する。

動物疾病看護学 A

授業の目的・概要

動物看護臨床学の総論を学ぶとともに、各論として消化器疾患、内分泌疾患、神経・整形外科疾患についての具体化した知識を習得するとともに、治療に関する必要な処置を理解し、チーム医療の一員として適切な看護を提供する方法を修得する。また、国試対策も併せ実施する。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	5 年
対象年次	2 年	年間単位数	3 単位

目標

前期

動物看護の基礎知識、動物看護過程、呼吸器疾患、循環器疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解することができる。

後期

消化器疾患、内分泌疾患、神経・整形外科疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解することができる。

事例に基づく動物看護過程の展開について学び、実践時の基本的能力を身に付けることができる。

授業計画

- 第1週 動物看護臨床学総論・基礎知識
- 第2週 動物看護臨床学総論・動物看護過程
- 第3週 動物看護臨床学総論・健康期
- 第4週 動物看護臨床学総論・急性期・回復期
- 第5週 動物看護臨床学総論・慢性期・終末期
- 第6週 呼吸器疾患の動物看護Ⅰ・呼吸器疾患とは・症状

第 7 週	呼吸器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
第 8 週	呼吸器疾患の動物看護Ⅲ・肺炎・肺水腫・胸水・犬伝染性気管支炎・猫の上部起動疾患
第 9 週	呼吸器疾患の動物看護Ⅳ・気管虚脱・短頸種気道症候群・猫喘息・肺腫瘍
第 10 週	循環器疾患の動物看護Ⅰ・循環器疾患とは・症状
第 11 週	循環器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
第 12 週	循環器疾患の動物看護Ⅲ・うっ血性心不全・僧帽弁閉鎖不全症・先天性疾患
第 13 週	循環器疾患の動物看護Ⅳ・犬糸状虫症・拡張型心筋症・肥大型心筋症・心室性不整脈
第 14 週	消化器疾患の動物看護Ⅰ・消化器疾患・症状
第 15 週	消化器疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
第 16 週	前期試験
第 17 週	前期試験採点
第 18 週	前期試験返却、解答・解説
第 19 週	消化器疾患の動物看護Ⅲ・猫の歯肉口内炎・歯周病・巨大食道症・胃炎・胃拡張
第 20 週	消化器疾患の動物看護Ⅳ・パルボウイルス感染症・炎症性腸疾患・肝炎
第 21 週	内分泌疾患の動物看護Ⅰ・内分泌疾患とは・症状
第 22 週	内分泌疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
第 23 週	内分泌疾患の動物看護Ⅲ・糖尿病・低血糖症・甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症
第 24 週	VN2 一斉インターンシップ実習
第 25 週	VN2 一斉インターンシップ実習
第 26 週	内分泌疾患の動物看護Ⅳ・副腎皮質機能亢進症・副腎皮質機能低下症・高 Ca 血症
第 27 週	神経・整形外科疾患の動物看護Ⅰ・神経・整形外科疾患とは・症状
第 28 週	神経・整形外科疾患の動物看護Ⅱ・診察診断・治療
第 29 週	神経・整形外科疾患の動物看護Ⅲ・水頭症・特発性てんかん・ウォブラー症候群
第 30 週	神経・整形外科疾患の動物看護Ⅳ・馬尾症候群・神経系腫瘍・膝蓋骨脱臼等
第 31 週	後期試験
第 32 週	後期試験採点

第 33 週 後期試験返却、解答・解説

第 34 週 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅰ・右後肢断脚術を実施後急性期の動物看護

第 35 週 事例に基づく動物看護過程の展開Ⅱ・前十字靱帯断裂犬の術後回復期の動物看護

授業の方法

講義、演習問題

教材

インターズー「認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学各論」
イラストでみる犬の病気、イラストでみる猫の病気

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

動物看護学で得た机上の知識を、インターンシップおよび看護学実習と照らし合わせて、実学にフィードバックする。

実務経験と授業科目の関係

動物園勤務における種々の業務、および製菓勤務における安全性研究業務が講義の礎になっている。

動物疾病看護 B

授業の目的・概要

皮膚疾患、免疫介在性疾患、眼疾患、生殖器系疾患、泌尿器系疾患、および腫瘍性疾患の基本的な病態生理の知識を学び、治療に関する必要な処置を理解し、チーム医療の一員として適切な看護を提供する方法を修得する。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	5 年
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

皮膚疾患、造血器・免疫介在性疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解することができる。

後期

眼疾患、生殖器系疾患、泌尿器系疾患、腫瘍性疾患についての、機序や治療を学習し、獣医師をサポートする動物看護師としての役割を理解することができる。

授業計画

第1週 感染症・免疫介在性疾患・皮膚疾患とは

第2週 皮膚疾患：膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、天疱瘡

第3週 皮膚疾患：ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー

第4週 皮膚疾患：外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症

第5週 皮膚疾患：毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ、パペシア

第6週 造血器・免疫介在性疾患：腎性貧血、血友病

第7週 造血器・免疫介在性疾患：FIP、FeLV、FIV

第 8 週	造血器・免疫介在性疾患：免疫介在性溶血性貧血、ネギ中毒、リンパ腫
第 9 週	造血器・免疫介在性疾患：白血病、肥満細胞腫
第 10 週	眼疾患：結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎
第 11 週	眼疾患：角膜潰瘍、ブドウ膜炎 緑内障、白内障、核硬化症
第 12 週	眼疾患：流涙症、チェリーアイ 異所性睫毛
第 13 週	生殖器疾患：潜在精巣、前立腺炎 前立腺肥
第 14 週	生殖器疾患：子宮蓄膿症、偽妊娠、異常分娩、膣脱、犬ブルセラ症、乳腺炎、乳腺腫瘍
第 15 週	前期試験
第 16 週	前期試験採点
第 17 週	前期試験返却、解答・解説
第 18 週	泌尿器系疾患：急性腎障害、慢性腎臓病、腎盂腎炎
第 19 週	泌尿器系疾患：細菌性膀胱炎、尿路感染症
第 20 週	泌尿器系疾患：尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患
第 21 週	泌尿器系疾患：尿道閉塞症、レプトスピラ症、排尿障害
第 22 週	担がん動物の看護Ⅰ：がん診断の基礎知識
第 23 週	担がん動物の看護Ⅱ：主要疾患に対する化学療法
第 24 週	担がん動物の看護Ⅲ：栄養管理・疼痛管理
第 25 週	VN2 一斉インターンシップ実習
第 26 週	VN2 一斉インターンシップ実習
第 27 週	担がん動物の看護Ⅳ：介護について
第 28 週	緊急疾患：交通事故、感電、熱傷、熱中症
第 29 週	緊急疾患：中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー
第 30 週	ケンネルコフ等
第 31 週	事例に基づく動物看護過程の展開①
第 32 週	事例に基づく動物看護過程の展開②
第 33 週	後期試験

第 34 週 後期試験採点

第 35 週 後期試験返却、解答・解説

授業の方法

講義、演習問題

教材

インターズー「認定動物看護師コアカリキュラム 2019 準拠 臨床動物看護学 3 動物臨床看護学各論」

イラストでみる犬の病気、イラストでみる猫の病気

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

動物看護学で得た机上の知識を、インターンシップおよび看護学実習と照らし合わせて、実学にフィードバックする。

実務経験と授業科目の関係

動物園勤務における種々の業務、および製薬勤務における安全性研究業務が講義の礎になっている。

動物繁殖学

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師に必要な動物繁殖学の基礎知識を修得し、犬および猫の生殖生理や繁殖管理について科学的に理解することを目的とする。授業では、雄性・雌性生殖器の構造と機能、配偶子形成、生殖機能を調節するホルモン、発情周期および発情徴候について学び、繁殖の基礎となる生殖生理を体系的に理解する。さらに、受精・妊娠・分娩の過程、胎子および新生子の発育、生理機能、先天性異常について学ぶとともに、去勢・不妊手術の意義や繁殖制御について理解を深める。また、遺伝や器官発生に関する知識を身につけ、動物の健康維持や適正な繁殖管理に活用できる能力を養う。愛玩動物看護師として繁殖関連業務や飼い主への適切な指導・助言を行うための基礎的な知識と専門性を修得することを目指す。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	5 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

犬・猫の繁殖器官、卵子および精子形成を説明することができる。

後期

生殖機能調節に関わるホルモン、発情徴候と発情周期、妊娠と受精、遺伝子と器官発生および先天異常を説明することができる。

授業計画

第1回 ガイダンス・生殖とその分類

第2回 雄犬（猫）の繁殖器官

第3回 雌犬（猫）の繁殖器官

- 第4回 卵子形成・卵胞と黄体・排卵①
- 第5回 卵子形成・卵胞と黄体・排卵②
- 第6回 卵子形成・卵胞と黄体・排卵③
- 第7回 精子形成①
- 第8回 精子形成②
- 第9回 生殖機能調節に関わるホルモン①
- 第10回 生殖機能調節に関わるホルモン②
- 第11回 生殖機能調節に関わるホルモン③
- 第12回 発情徴候と発情周期①
- 第13回 発情徴候と発情周期②
- 第14回 発情徴候と発情周期③
- 第15回 前期試験
- 第16回 前期試験採点
- 第17回 前期試験返却、解答・解説
- 第18回 妊娠と受精①
- 第19回 妊娠と受精②
- 第20回 妊娠と受精③
- 第21回 分娩
- 第22回 遺伝子と器官発生①
- 第23回 遺伝子と器官発生②
- 第24回 去勢・不妊手術
- 第25回 VN2 一斉インターンシップ実習
- 第26回 VN2 一斉インターンシップ実習
- 第27回 新生子の解剖生理学① 胎子循環
- 第28回 新生子の解剖生理学② 新生児の生殖器
- 第29回 新生子の先天性異常（奇形）①視診で発見される先天性疾患

- 第 30 回 新生子の先天的異常（奇形）②成長につれて発見される先天性疾患 1
- 第 31 回 新生子の生理的機能① 体温・肺・消化・排便排尿
- 第 32 回 新生子の生理的機能② 初乳・溶血
- 第 33 回 後期試験
- 第 34 回 後期試験採点
- 第 35 回 後期試験返却、解答・解説

授業の方法

講義、演習問題

教材

インターズー 基礎動物看護学 1 「動物繁殖学」、ファームプレス 動物看護コアテキスト 2 巻 動物のからだの構造と機能 第 2 版 「第 11 章 子どもをつくる」、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1 巻 動物繁殖学

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

事前学習では、教科書や配布資料を用いて生殖器の構造や機能、ホルモン、発情周期など授業で扱う内容の基礎用語を確認し、概要を理解しておく。事後学習では、授業内容を復習し、生殖生理や妊娠・分娩、新生子の発育過程について整理するとともに、重要事項をまとめて知識の定着を図る。また、愛玩動物看護師として必要な繁殖管理との関連性を意識しながら理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

動物園勤務における種々の動物の繁殖業務（特に膣スメア）が講義の礎になっている。

動物病理学

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師に必要な病理学の基礎知識を修得し、疾病の発生機序や生体反応を科学的に理解することを目的とする。授業では、病気の原因や病態形成の過程、生体の恒常性維持機構（ホメオスタシス）、細胞傷害や組織の変化、循環障害、炎症、免疫反応および腫瘍の発生について体系的に学ぶ。また、先天異常や遺伝的要因、環境要因による疾病発生の仕組みについて理解を深める。これらの知識を通して、疾病の成り立ちや病理学的変化を適切に把握し、臨床現場における症状や検査所見との関連性を理解する力を養う。さらに、獣医師の診療補助や適切な動物看護を実践するための基礎的な病態理解能力を身につけ、愛玩動物看護師として求められる専門性の向上を目指す。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	5 年
対象年次	2 年	年間単位数	1

目標

1 学期

生体反応と病気の成り立ち、生体の回復力、細胞や組織に生じる変化を学び、理解する。

2 学期

増殖と修復、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、および先天性疾患を学び、具体的な疾患の病理メカニズムを理解する。

授業計画

第1回 ガイダンス・第1章 病理学とは

第2回 第2章 生体反応と病気の成り立ち ①病気の原因

第3回 第2章 生体反応と病気の成り立ち ②バイタルサイン

第4回 第3章 生体の回復力 ①ホメオスタシス・神経系

第5回	第3章	生体の回復力 ②ホメオスタシス・内分泌系
第6回	第3章	生体の回復力 ③ホメオスタシス・免疫系
第7回	第4章	細胞や組織に生じる変化 ①細胞傷害・細胞の変化
第8回	第4章	細胞や組織に生じる変化 ②壊死とアポトーシス
第9回	第4章	細胞や組織に生じる変化 ③萎縮と低形成
第10回	第5章	増殖と修復 ①細胞の増殖と組織の変化・化生
第11回	第5章	増殖と修復 ②組織の修復と治癒
第12回	第5章	増殖と修復 ③創傷治癒・骨折の治癒
第13回	第6章	循環障害 ①血液循環とリンパ液循環・水腫
第14回	第6章	循環障害 ②充血とうっ血・出血と止血
第15回		前期試験
第16回		前期試験採点
第17回		前期試験返却、解答・解説
第18回	第6章	循環障害 ③DIC・血栓・塞栓・虚血・梗塞・ショック
第19回	第7章	炎症 ①炎症の原因と役割
第20回	第7章	炎症 ②五大主徴
第21回	第7章	炎症 ③炎症の経過と治癒
第22回	第7章	炎症 ④炎症に関わる細胞とケミカルメディエーター
第23回	第7章	炎症 ⑤急性炎症
第24回	第7章	炎症 ⑥慢性炎症
第25回		VN2 一斉インターンシップ実習
第26回		VN2 一斉インターンシップ実習
第27回	第8章	免疫 ①免疫反応
第28回	第8章	免疫 ②抗体産生
第29回	第8章	免疫 ③免疫応答の異常（アレルギー）
第30回	第9章	腫瘍 ①細胞の増殖分化とその異常

第 31 回 第 9 章 腫瘍 ②腫瘍の定義と分類、転移

第 32 回 第 10 章 先天異常 遺伝的・環境要因

第 33 回 後期試験

第 34 回 後期試験採点

第 35 回 後期試験返却、解答・解説

授業の方法

講義、演習問題

教材

ファームプレス「第 3 巻 動物看護コアテキスト 動物の疾病と予防および回復 第 2 版、動物病理学」、文栄堂「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠『病理学』 動物病理学総論 第 3 版」、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2 巻 動物病理学

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

自分や家族が病気に罹患した経験を具体化し、病学的変化を客観的に理解するように努める。

実務経験と授業科目の関係

動物園勤務における種々の業務、および製薬勤務における安全性研究業務が講義の礎になっている。

動物薬理学

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師に必要な薬理学の基礎知識を修得し、動物医療で使用される薬物の作用機序や適正使用について理解することを目的とする。授業では、薬理学の基本概念である薬理作用、薬物動態、投与経路、副作用および薬物の取り扱いについて学ぶとともに、神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、血液・免疫系など各器官系に作用する薬物の特徴と適応について理解を深める。また、抗菌薬、抗真菌薬、抗寄生虫薬、抗腫瘍薬などの化学療法薬について学び、感染症や各種疾患に対する薬物療法の基礎を修得する。さらに、薬剤計算や安全管理に関する知識を身につけ、獣医師の指示のもとで適切な診療補助を行うための能力を養うことで、愛玩動物看護師として求められる専門性と実践力の向上を目指す。

科	動物看護師学科	教員	松嶋 周一
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	5 年
対象年次	2 年	年間単位数	2

目標

1 学期

薬理作用、薬物動態、投与方法を理解するとともに、薬物の投与量の計算方法を身につける。

2 学期

各種疾患に対する薬物の薬理作用を理解するとともに、各種薬剤の種類を把握することができる。

授業計画

第1週 ガイダンス・薬理学とは

第2週 薬物の取り扱い

第3週 単位・用語・計算問題

第4週 薬理学の基礎：薬理作用

第 5 週	薬理学の基礎：薬物動態・投与方法
第 6 週	薬理学の基礎：副作用
第 7 週	神経系に作用する薬剤：麻酔薬
第 8 週	神経系に作用する薬剤：鎮痛薬
第 9 週	神経系に作用する薬剤：鎮静と抗けいれん薬
第 10 週	呼吸器系に作用する薬物
第 11 週	循環器に作用する薬物：降圧薬
第 12 週	循環器に作用する薬物：強心薬、泌尿器に作用する薬物
第 13 週	消化器に作用する薬物：制吐薬と抗潰瘍薬
第 14 週	消化器に作用する薬物：止瀉薬と瀉下薬
第 15 週	消化器に作用する薬物：肝疾患治療薬
第 16 週	前期試験
第 17 週	前期試験採点
第 18 週	前期試験返却、解答・解説
第 19 週	オータコイドとは①
第 20 週	オータコイド②レニン・アンジオテンシン
第 21 週	代謝・内分泌の薬物：糖尿病と甲状腺障害治療薬
第 22 週	代謝・内分泌の薬物：ステロイドホルモン
第 23 週	血液・免疫系に作用する薬物：抗貧血薬と止血薬
第 24 週	血液・免疫系に作用する薬物：抗炎症薬
第 25 週	VN2 一斉インターンシップ実習
第 26 週	VN2 一斉インターンシップ実習
第 27 週	血液・免疫系に作用する薬物：抗炎症薬
第 28 週	血液・免疫系に作用する薬物：免疫抑制薬
第 29 週	化学療法薬：消毒薬・殺虫薬
第 30 週	化学療法薬：抗菌薬

第 31 週 化学療法薬：抗真菌薬

第 32 週 化学療法薬：抗蠕虫・原虫薬、抗腫瘍薬

第 33 週 後期試験

第 34 週 後期試験採点

第 35 週 後期試験返却、解答・解説

授業の方法

講義、演習問題

教材

ファームプレス「第 3 巻 動物看護コアテキスト 動物の疾病と予防および回復 第 2 版、動物薬理学」、コンパニオン・アニマルのファースト・ステップ薬理学、EDUWARD press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2 巻 動物薬理学

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身近に接する医薬品の成分や薬理作用にアンテナを張り巡らし、病気と薬理作用について、注意深く確認する。

実務経験と授業科目の関係

動物園勤務における種々の業務、および製薬勤務における安全性研究業務が講義の礎になっている。

臨床動物看護学

授業の目的・概要

本授業は、愛玩動物看護師として必要な臨床動物看護の知識と実践的思考力を修得し、対象動物に適切な看護を提供するための基礎を身につけることを目的とする。授業では、チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割や責任を理解するとともに、クリニカルパスや動物看護過程を通して科学的根拠に基づく看護実践について学ぶ。また、動物の QOL 維持を目的とした疼痛管理や安全管理、ライフステージに応じた看護、急性期・回復期・慢性期・終末期における看護の特徴について理解を深める。さらに、看護記録の作成や看護診断、看護計画立案の演習を通じて、臨床現場で必要となる観察力、判断力および問題解決能力を養う。獣医療チームの一員として質の高い動物看護を実践できる愛玩動物看護師の育成を目指す。

科	動物看護師学科	教員	梶 美美子
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	動物看護師歴 17 年
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

前期:チーム医療における愛玩動物看護師の役割を学び、動物看護過程の意味を理解できる。

後期:ライフステージ・看護動物の状態に応じた動物看護過程の展開ができる。

授業計画

- 1 回 チーム医療の理解・看護師の役割を理解。自身の看護学生としての年間目標の設定。
- 2 回 ケアの標準化(クリニカルパスについて)
- 3 回 クリニカルパスの作成
- 4 回 臨床における動物の QOL 維持の重要性について
- 5 回 QOL 維持(痛みのメカニズム)
- 6 回 QOL 維持(痛みの管理)
- 7 回 動物看護管理(ナースングシステム)
- 8 回 動物看護管理(安全管理)
- 9 回 動物看護過程とは(目的・意義・方法・看護理論)
- 10 回 動物看護過程(アセスメント)
- 11 回 動物看護過程(看護診断)
- 12 回 動物看護過程(看護計画)
- 13 回 動物看護過程(看護実践・評価)
- 14 回 診療記録について
- 15 回 動物看護記録について
- 16 回 前期試験
- 17 回 前期試験返却・解説
- 18 回 課題患者の看護記録を作成する。自身の看護学生目標の中間評価

- 19回 動物看護業務(成長過程)
- 20回 動物看護業務(若齢期)
- 21回 動物看護業務(老齢期)
- 22回 動物看護業務(褥瘡)
- 23回 動物看護業務(急性期)
- 24回 インターン実習
- 25回 インターン実習
- 26回 動物看護業務(回復期)
- 27回 動物看護業務(慢性期)
- 28回 動物看護業務(終末期)
- 29回 動物看護業務(グリーフケア)
- 30回 後期試験
- 31回 後期試験返却・解説
- 32回 課題患者の看護計画を立てる・自身の看護学生目標の振り返り
- 33回 課題患者の看護診断(グループワーク)
- 34回 課題患者の看護計画(グループワーク)
- 35回 各グループの看護計画発表

授業の方法

教科書を使用した座学と共に、看護過程ではグループワークを実施する。

教材

- ・ EDUWARD Press 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 第9巻／実習テキスト
- ・ 自作プリント（必要に応じて授業中に適宜配布する）

評価の方法

試験 80%、授業態度 10%、課題提出 10% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次回項目のポイントを書きだしノートにまとめ、授業内容の疑問点を整理し復習する。

実務経験と授業科目の関係

臨床現場で診られる症例を基に授業内容に反映し、自身の経験を提供する